

【第3回八戸市総合計画策定委員会】

次期八戸市総合計画 [基本構想]

<素案>

未来、みらい、MIRAI…

あなたはこのまちで、どんな未来を思い描きますか？

10年後の自分って、何をしているんだろう？

10年後。小学生の多くは成人となり、中学生や高校生は社会人に。中には子育てをしている人もいるかもしれません。職場では若手が中堅になって仕事に打ち込んでいるでしょうし、一方でその頃には定年を迎え趣味を楽しむ人もいるでしょう。

そんな私たち一人ひとりの変化は、大きな視点で見ると、まちの変化でもあります。私たちの考えや行動が変わっていくと、まちのその先も変わっていく。つまり「私たちの未来は、まちの未来」なのではないでしょうか。だから、自分の未来へのビジョンを持てば、まちの未来のビジョンも見えてくる。自分らしく楽しく暮らす毎日を思い描けば、ワクワクするようなまちになっていく。

この『ここに計画名または冊子名称が入ります』は、そんな未来を考えるための羅針盤のようなもの。中に出てくるいろんなキーワードを参考にしながら、私たちみんな未来をイメージしていきましょう。

はじめに	1
第1章 将来都市像	2
第2章 4つの柱について	4
第3章 はちのへについて	6
第4章 将来予測	9
第5章 行動指針	12
第6章 本計画について	14
おわりに	19

第1章

将来都市像

【ここに将来都市像が入ります】

近い将来、こんな八戸になってほしいというみんなの声をイメージ化しました。

ここにイラストが入ります。

私たちは、安心して暮らせるまちの中で、つながりやお互いの価値観を大切にしながら、誰もが自分で選んだ自分らしく充実した道を、自由な夢を描きながら、それぞれの歩幅で歩いていくことができます。

まちを支え、受け継がれてきた産業や資源は、新しい価値や挑戦と交わることでさらに磨かれ、未来へ向かう新しい力へと姿を変えていきます。また、人のつながりから生まれる活力がまちを巡りながら、私たちとまち全体が豊かに育まれていきます。

伝統と革新の調和が、まちの魅力と誇りを育て、その誇りがまた、次代を生きる人へつながっていく。そうしてまちは、私たちと共に歩みながら、しなやかに、そして力強く、次の時代へ進化していきます。

私たちは、そんな「ここに将来都市像が入ります」を目指し、これからも歩みを進めていきます。

第2章

将来都市像の実現に向けた 4つの柱について

ここに将来都市像が入ります

将来都市像の実現に向けた4つの柱について

将来像：ひと

人がつながり、自分らしく笑顔で暮らせるまち

誰もがそれぞれの歩幅を大切にしながら、世代や立場の違いを越えて支え合い、自分らしい暮らしを築いていける。子どもは安心して育ち可能性を広げ、大人は新たな学びに触れられる環境が整っています。

困ったときには自然に手が差し伸べられ、喜びは心を通わせて分かち合われる。そうした温かなつながりが、地域に息づいています。

ここでは、多様な個性が尊重され、人と人との深い結びつきの中で互いの価値を認め合い、このまちに関わるすべての人が大切にされながら、自分らしく笑顔で暮らせるまちを目指します。

将来像：しごと

活力が巡り、経済が発展するまち

地域の強みを活かした多様な産業が互いに連携し、新しい価値を次々に生み出すことで、まち全体に活力が巡っています。

働く人々の選択肢はより広がり、若い世代がここで働きたいと思える環境が整うとともに、地域内の消費や投資が活発に循環し、経済の基盤はより確かなものとなり、活力が持続的に生まれています。

八戸を支えてきた産業の力と、新たな価値を生み出す意志が響き合い、地域経済は安定した土台の上に着実な発展を遂げています。

ここでは、人と産業が調和しながら未来へと歩みを進め、まちが自らの力で発展を続ける、持続可能な産業のまちを目指します。

将来像：まち

安心して暮らし続けられる、やさしいまち

安全な暮らしの中で、心身ともに健やかな日常を過ごしています。

まちのインフラは生活をしっかりと支え、豊かな自然は守られながらも暮らしに寄り添い、心地よい環境を形づくっています。

ここでは、まちと自然が調和し、誰もが安心して伸びやかに暮らし続けられるやさしいまちを目指します。

将来像：魅力

誇りと魅力を育み、元気あふれるまち

このまちの暮らしには、長い年月の中で培われた八戸ならではの文化や資源が脈々と受け継がれています。その特色は、このまちで暮らす人はもちろん、訪れる人の心にも響き、このまちに関わるたくさんの人の心に確かな価値を育んでいます。

なかでも未来を見つめる若者は、受け継がれてきた八戸らしさに触れながら、自らの夢を思い描き、その実現へ向けて一步を踏み出しています。新たな感性から生まれる挑戦がまち全体に瑞々しい息吹をもたらしています。

ここでは、受け継がれてきた歩みと新たな挑戦が交わり、誇りと魅力を育みながら、次代を生きる力が未来を切り拓いていく、元気あふれるまちを目指します。

第3章

はちのへについて

未来を思い描く市民一人ひとりの意思が、 八戸のまちを拓いてきました。

～まちの未来を考えるために、「まちのこれまで」を振り返ってみる～

八戸市は、昭和4年5月1日、当時の八戸町・小中野町・湊町及び鮫村の4町村の合併により誕生しました。

これまで幾多の困難を先人たちのたゆみない努力によって乗り越え、恵まれた地域資源を活かして、まちの基礎を築き、全国有数の水産都市、北東北屈指の工業都市として発展してきました。

当市が目覚ましい成長を遂げる契機となったのは、昭和39年の新産業都市指定。行政のみならず経済界や市民が一体となって大きな夢と構想を掲げ、強力な運動を展開しました。

その結果、臨海部を中心に産業基盤の整備が進み、現在は、工業をはじめ、水産業や農畜産業など多種多様な産業が集積する一大産業都市として、北東北の地域経済をけん引しています。

また、平成14年の東北新幹線八戸開業や平成29年には、中核市に移行するとともに近隣7町村と八戸圏域連携中枢都市圏を形成し、北東北地方の住民生活と地域経済を支える拠点として、更なる飛躍を遂げています。

いま、時代が大きく変化する中で、新しい八戸を創り上げていくためには、当時のような市民一人ひとりの力を結集するとともに、当市が持つ広域的な公共交通ネットワークの拠点としての強みや、豊かな地域資源を最大限に活かし、更なる市勢発展につなげていく必要があります。

私たちが持っている「未来を思い描く力」に自信を持って、次の一步を力強く踏み出していきましょう。

市民のみなさんに聞いてみました！『八戸市ってどんなところ？』

～まちの未来を考えるために、「まちのいいところ」を再確認してみる～

豊かな海が育む食文化があるまち。そして旨みたっぷりの海産物が多い。ご当地グルメの火付け役であるせんべい汁も有名になってうれしい。



競技だけでなく応援や交流の場として親しまれているスポーツ文化があるまち。プロスポーツをはじめとするチームの活動を通じて、世代を超えた一体感が生まれていると思う。

日常の中で自然に声を掛け合う温かな人柄を感じるまち。祭りや朝市、地域活動などを通じて、初対面でも関わりが生まれやすい環境があるのがいい。

色とりどりの食材が並ぶ食のテーマパーク八食センターがあるまち。八戸の食を楽しむなら外せないスポットだから、みんなにオススメしたい。



誇らしい祭りがあるまち。夏を華麗な山車が彩る祭礼行事「八戸三社大祭」、冬に春の訪れを願う民俗芸能「八戸えんぶり」は、連綿と地域に受け継がれてきた。見る側と担う側が明確に分かれず、多くの市民が準備や運営に関わり、まち全体で支える文化が受け継がれているのがとてもいいと思う。

資源の写真を箇所に掲載
※掲載写真は一例

背景にMAPを掲載

※令和7年度に行ったワークショップやアンケートなどにおいて市民の皆さんから寄せられたご意見から、主なものを再構成してまとめました。

陸・海・空の交通結節点のまち。八戸港があり、近くには空港もある。鉄道や交通網も整備・集積されているので、それらが産業を支え、市民生活を便利にしている。

種差海岸やウミネコの繁殖地として知られる蕪島など、海とともにある自然環境に恵まれているまち。こうした自然は眺めてキレイなのはもちろんだけど、散策や学習、日常の憩いの場として暮らしの中に溶け込んでいて、すごく贅沢だと思う。



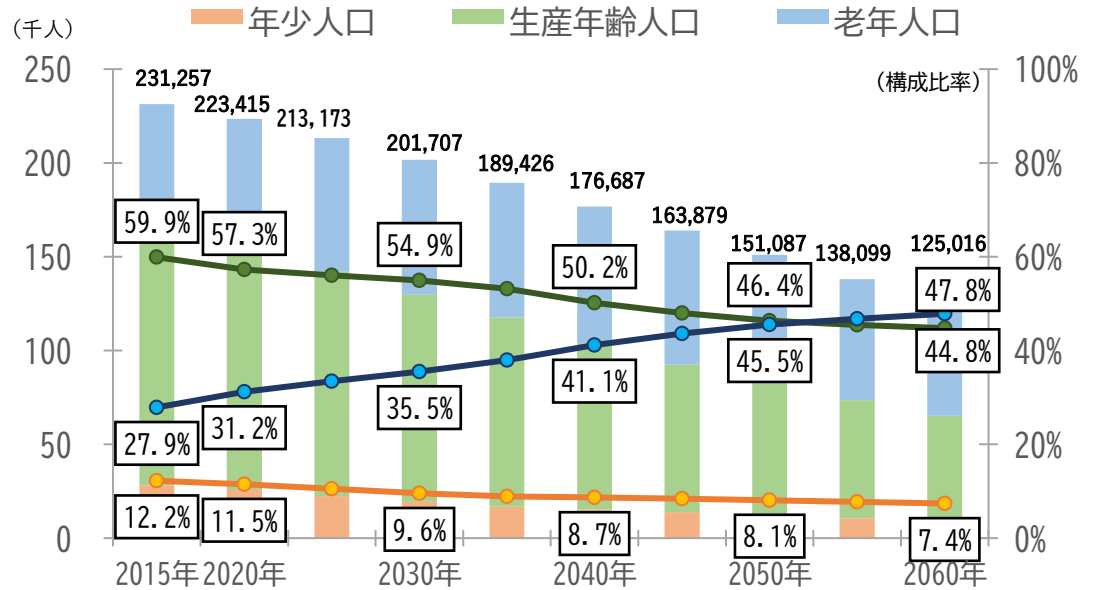
朝市から始まる「特別な朝」があるまち。館鼻岸壁朝市では、買物や食事を通じて人と人が自然に言葉を交わし夜明け前から活気がみなぎっていて、行くたびにワクワクしちゃう。

第4章

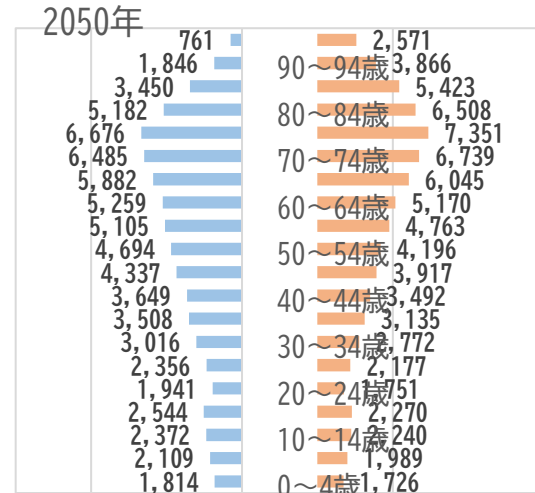
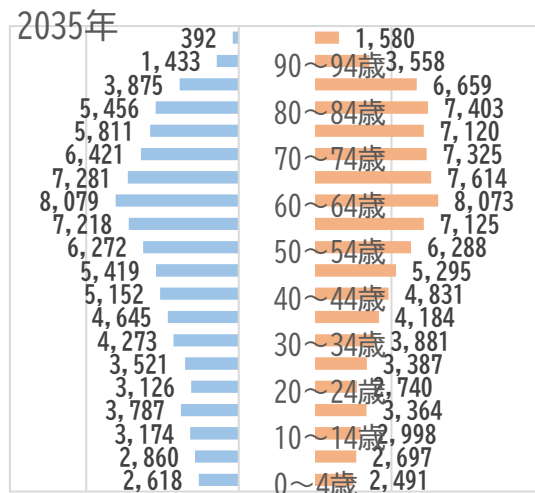
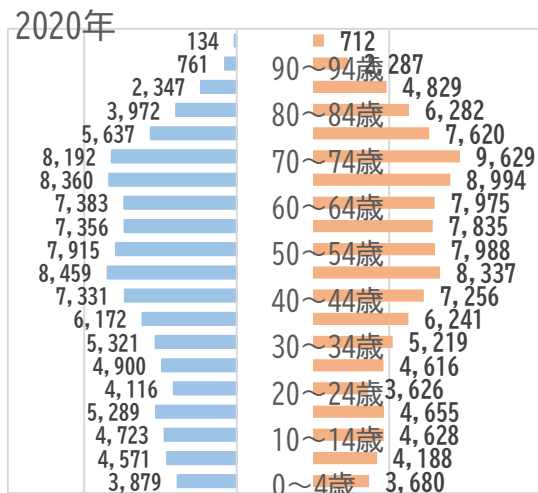
将来予測

当市の人口の推移・見通し

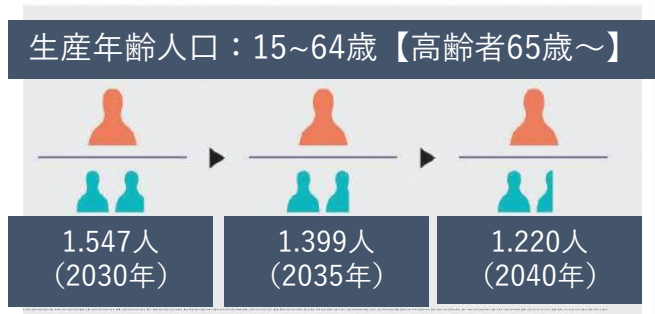
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によれば、現状のまま人口減少が続く場合、当市の人口は2040年に176,687人に、2060年には125,016人まで減少すると推計されています。
- 生産年齢人口の構成割合は、2040年に50.2%と総人口の約半分となり、2060年には44.8%まで落ち込む一方で、老年人口の構成割合は47.8%まで増加すると予想され、年少人口の構成割合は7.4%まで減少すると推計されています。
- 同研究所のデータを基に人口ピラミッドを作成すると、2050年は2020年に比べ、若年層が減少することでより細い「つぼ型」になっています。特に人口ピラミッドの下層部にあたる0～29歳までの人口がかなり少なくなっています。



- 今後、人口構造の変化に伴い、様々な分野において課題が顕在化する可能性があります。



人口減少による地域社会への影響



当市の人口が減少し、過去と比べ人口ピラミッドが変化している中で、地域では様々な課題が表れ、地域社会へ影響を及ぼしていきます。

変化が激しい時代において、今後ますます様々な課題の発生が見込まれることが想定されます。

地域生活分野

- ・住民同士のつながりの希薄化
- ・地域における助け合いや支え合い機能の弱体化による社会的孤立の加速化
- ・防災や防犯、高齢者や子供の見守り等の市民の安全・安心を守る地域活動の減少

商工・産業分野

- ・後継者不足や若手創業者の減少による地域経済の自立度低下や新陳代謝の低調
- ・労働力人口の減少による人材確保の困難化
- ・消費の減少による市場の縮小化

福祉分野

- ・一人暮らし高齢者などの単身世帯の相対的な増加
- ・高齢化進行に伴う福祉分野の人材不足
- ・高齢者の孤独・孤立の加速化

こども

- ・廃校の増加等といった教育環境に関する構造変化
- ・こども同士のコミュニケーションの質・量の変化
- ・社会構造の変化に則した子育て環境の整備
- ・地方大学を取り巻く環境の変化
- ・児童福祉や児童向けサービスに関するニーズの変動

都市整備

- ・人口密度の低下による生活インフラの維持効率の低下
- ・交通サービスの縮小（学生の減少による民間事業者の経営環境の悪化、採算性の悪化による廃線等）
- ・空き家の増加による住環境の悪化

行財政

- ・税収減少による行政サービスの質の低下
- ・扶助費の増加による財政硬直化の進行
- ・限られた財源・人員における行政サービスの取捨選択

第 5 章

行動指針

まちづくり推進のための行動指針

人口減少社会の中、変化が激しく将来の予測が難しい時代を迎えています。
そのような中でも、明るい未来を目指し、わたしたちはまちづくりを進めます。

大切にしたい視点

①自分ごと化

自分の暮らしや行動がまちを形づくっているという意識を持ち、一人ひとりが主体となって関わるのが大切です。身近な課題や変化に目を向け、小さな一歩から行動を積み重ねることが、まちの力となっていきます。

②挑戦

変化の時代にあっては、現状にとどまらず、新しい可能性に向けて踏み出す姿勢が求められます。失敗を恐れず学びを重ねながら、自らの夢や目標に挑み続けることが、まち全体の活力を生み出します。

③多様性

世代や立場、価値観の違いを認め合い、互いの考えや生き方を尊重することが、豊かな関係性を育みます。違いを力に変えながら、ともに歩む姿勢が、しなやかで強いまちを支えます。

行政運営の視点

①持続可能な行政運営

限られた資源を最大限に活かしながら、将来世代に過度な負担を残さない健全で安定した運営を行います。施策の効果を的確に見極め、選択と集中を図りながら、持続可能な行政運営を進めます。

②変化に対応する仕組みづくり

デジタルや新しい手法を活用し、利便性の向上と業務の効率化を図ります。分かりやすく、使いやすい仕組みを整え、市民に寄り添った対応を心がけます。

③先を見据えた施策形成

社会や国・県の動きを捉え、産学官金等との関係団体との連携を図りながら、広い視野と柔軟な発想のもとで施策を検討します。時代の潮流を踏まえながら、迅速かつ的確な対応に取り組みます。

④広域連携

周辺自治体との連携を一層深め、それぞれの強みを活かしながら圏域全体の発展につなげます。相互の協力関係を築き、地域全体の力を高めていきます。

⑤伝わる情報発信

市の魅力や施策の内容を分かりやすく丁寧に、かつ積極的に伝え、このまちに関わる人との信頼関係を築きます。双方向のやり取りを大切に、まちへの関心と参画の輪を広げていきます。

第6章

本計画について

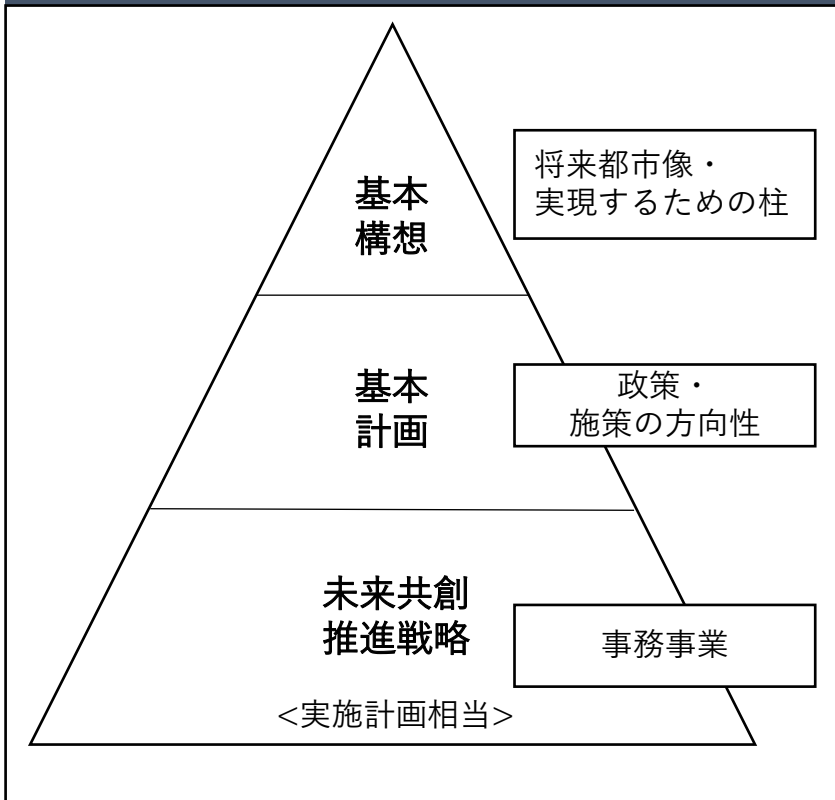
総合計画とは

総合計画とは、「市の目指すべき将来像」と「その実現に必要な諸施策の方向性」等を定めるもので、市政の最も基本となる計画（最上位計画）で、市の羅針盤とも言えます。

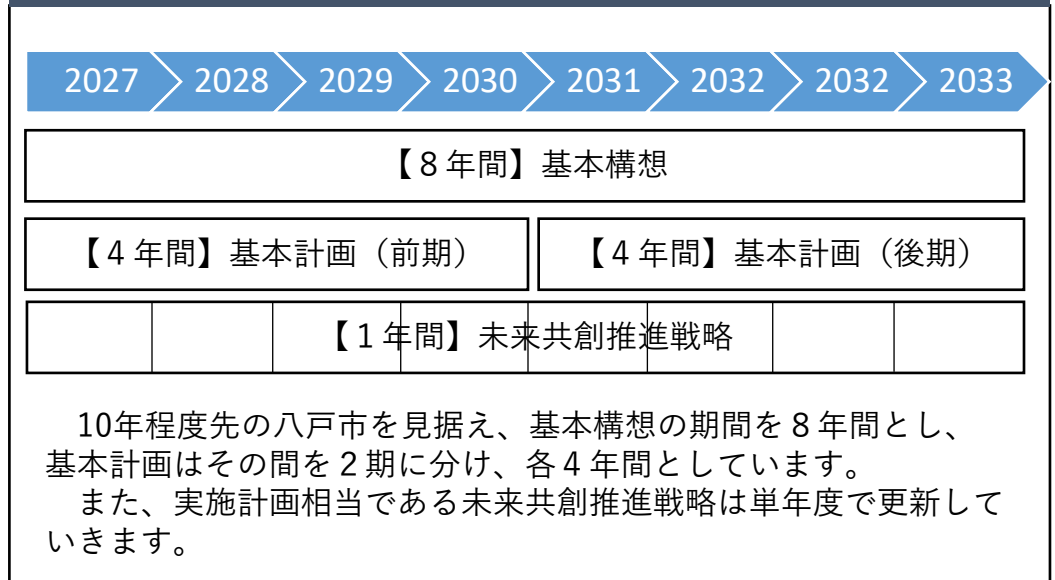
中でも基本構想については、みんなが「将来こうなっていてほしい」という八戸市の状態を表す将来都市像を示しているところです。

また、この総合計画は、八戸市で策定する様々な分野の個別計画を導く役割も担っています。

次期八戸市総合計画の構造



次期八戸市総合計画の期間



計画の見直し

未来共創推進戦略は毎年度の見直しを行うほか、計画期間中に社会情勢が大きく変化した場合は、基本計画の見直しを検討します。

八戸市総合計画策定委員会名簿

任期：令和7年10月9日～令和8年〇月〇日

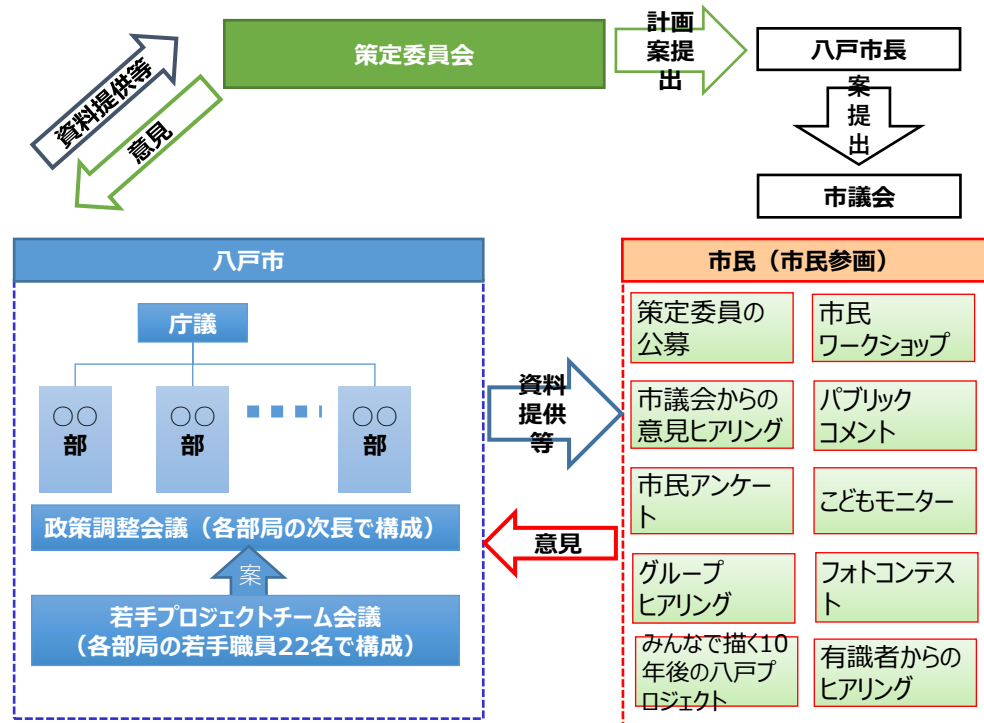
氏名	所属等
1 アンジェリカ・ワン	八戸市多文化共生審議会 委員
2 今川 和佳子	はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード委員
3 岡本 信也	八戸商工会議所青年部 会長
4 奥寺 良之	八戸市医師会 会長
5 小澤 直子	八戸市教育委員
6 金入 健雄	八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 会長
7 川上 敦史	高館地区連合町内会 会長
8 木村 照男	八戸農業協同組合 代表理事専務
9 栗林 志音	公募
10 小藤 一樹	八戸市都市計画審議会 会長
11 嵯峨 弘音	三八地区高等学校長協会 会長
12 坂	
13 佐	
14 重	
15 接	
16 高	
17 高橋 学	岩手県北自動車(株)南部支社 支社長
18 塚尾 沙貴	公募
19 堤 静子	八戸市総合計画等推進市民委員会 委員長
20 田頭 初美	八戸市子ども・子育て会議 委員
21 中村 一明	連合青森三八地域協議会 議長
22 広瀬 知明	八戸商工会議所 副会長
23 町田 直子	NPO法人ACTY 理事長
24 間山 路代	社会福祉法人八戸市社会福祉協議会 事務局長
25 南 将人	八戸工業高等専門学校 教授
26 目澤 伸一	八戸市スポーツ推進委員協議会 会長
27 山道 典子	公募
28 類家 徳久	商店街振興組合三日町三栄会 理事長

第1回策定委員会の名簿を掲載しています。

副会長

委員長：堤 静子
副委員長：南 将人

策定体制



策定の歩み

R7.10.9	第1回策定委員会 (策定コンセプト、計画構造・期間等)
R8.1.16	第2回策定委員会 (基本計画の構成、基本構想の骨子)
R8.4.21	第3回策定委員会 (基本構想の素案)
R8.6.	第4回策定委員会
R8.8	第5回策定委員会
	パブリックコメント
R8.10	第6回策定委員会
R8.10	案を市長へ提出
R8.12	市議会による基本構想の議決

市民参画の取組について

ビジョンを決めていくにあたり、市民の皆さんの声を、聞きたい。
そこで、いろいろな場をつくり、たくさんのご意見をいただきました。

市民ワークショップ

- ・ 共通テーマ「10年後になってほしい八戸市」
- ・ R7.12.13 23人参加（社会人）／R7.12.20 54人参加（高校生20人、大学生25人、社会人9人）

市民アンケート（下記2種類とも内容は同一）

- ・ 【無作為抽出及び市政モニター】 期間：R7.11.21～12.12 配付数：3,103人／回答数：1,582人（回答率51%）
- ・ 【上記以外（誰でも回答可能）】 期間：R7.12.15～R8.1.16 回答数：134人

こどもモニターアンケート調査

- ・ 期間：R7.11.21～12.8 配付数：100人（小学校5年生～高校3年生）／回答数：82人（回答率82%）

フォトコンテスト

- ・ 実施期間：R7.10.17～R8.2.28

みんなで描く10年後の八戸プロジェクト

- ・ 実施期間：R7.12.19～R8.1.16 有効回答数771の意見（場所：八戸市役所、はっち、八食センター、八戸駅）

グループヒアリング

- ・ 多文化共生（外国人）：R8.1.25 ・ デジタル：R8.1.30 ・ 若者：R8.1.31 ・ 青年経済界：R8.2.13

有識者ヒアリング

- ・ 地方行政、産業、広域連携、行財政、スポーツ×まちづくりに関する分野の有識者からヒアリングを実施

パブリックコメント

- ・ 期間：R8.〇.〇～〇.〇 〇個の意見

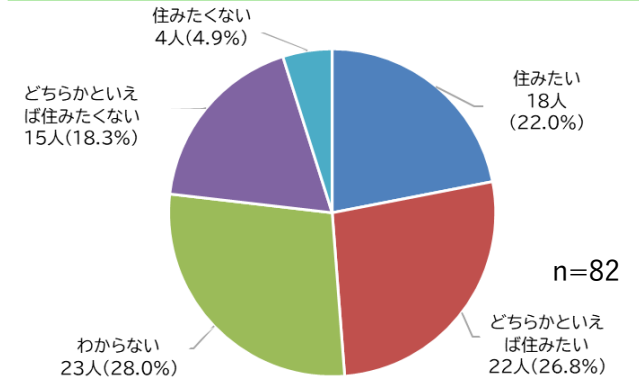
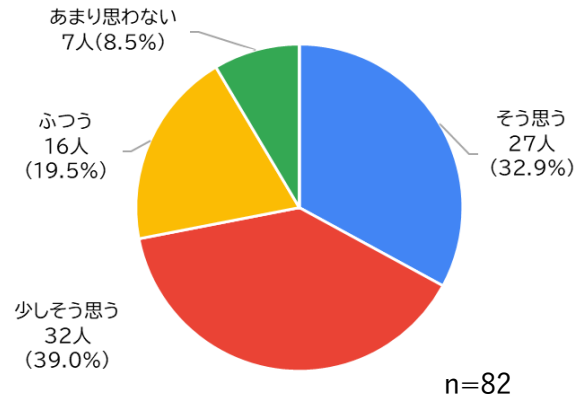
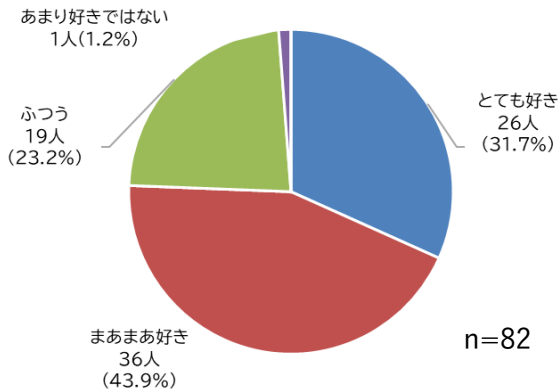
八戸市をどう思いますか？

こどもモニター

問：八戸市が好きですか？

問：住みやすいまちだと思いますか？

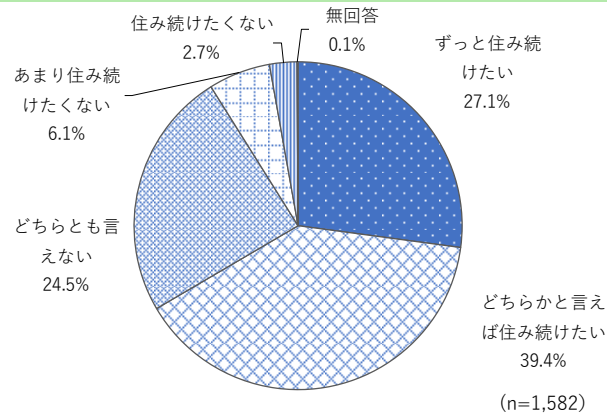
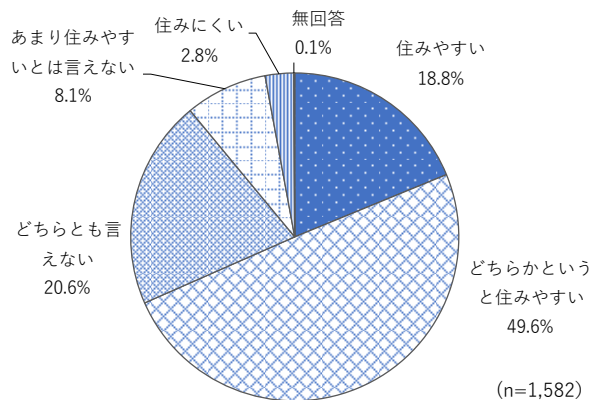
問：大人になっても住みたいですか？



市民アンケート（無作為抽出及び市政モニター分）

問：住みやすいまちだと思いますか？

問：住み続けたいですか？



今日から、あたらしい未来が始まります。

『ここに冊子名称が入ります』をご覧ください、いかがでしたか？

未来を考えること。それは、すこし大きさに感じたり、ちょっと遠くに感じたりしがちです。それでも今回のビジョン策定にあたってワークショップやヒアリングなどに参加した方々は、「未来を思い描く」ことの楽しさと大切さを実感していただいた様子でした。

次はぜひ、このビジョンに関心をもってくれたあなたにも、自分の未来を自由に思い描いてほしいと思います。そして、そこからあらためて八戸のことを知りたいと思ったり、なにか行動を始めたり、だれかとつながる喜びを感じていただけたら、うれしく思います。

自分の未来を考えることは、まちの未来につながります。『ここに将来都市像が入ります』に向けた歩みがここからはじまります。共にこれからも住みやすく、住み続けたい未来を創っていきましょう。

八戸市

■編集・発行

八戸市 総合政策部 政策推進課

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1番1号

TEL : 0178-43-2111 (代表)

FAX : 0178-47-1485

H P : <http://www/city.Hachinohe.Aomori.jp>